

株式会社 JEPLAN
2025 年 4 月 21 日

業界を超えた連携でケミカルリサイクルの原料を非食品用途 PET へ拡大

―国内初飲料用ペットボトル以外の PET 樹脂から飲料用ペットボトルへ再生―

株式会社 JEPLAN（代表取締役 執行役員社長：高尾正樹、以下「JEPLAN」）、キリンホールディングス株式会社（社長 COO：南方健志、以下「キリン」）、TDK 株式会社（代表取締役 社長執行役員 CEO：齋藤昇、以下「TDK」）、株式会社村田製作所（代表取締役社長：中島規巨、以下「村田製作所」）、花王株式会社（代表取締役 社長執行役員：長谷部佳宏、以下「花王」）、株式会社ファンケル（代表取締役 社長執行役員：三橋英記、以下「ファンケル」）、キリンビバレッジ株式会社（代表取締役社長：井上一弘、以下「キリンビバレッジ」）、ペトリファインテクノロジー株式会社（代表取締役 執行役員社長：伊賀大悟、以下「ペトリファインテクノロジー」）、アサヒ飲料株式会社（代表取締役社長：米女太一、以下「アサヒ飲料」）は、業界を超えた 9 社で連携し、飲料用ペットボトルと非食品用途 PET^{※1} を原料とするケミカルリサイクル^{※2}（以下「CR」）により、各種ペットボトルへリサイクルする取り組みを開始します。なお、非食品用途 PET を原料に、飲料用ペットボトルとして再生する取り組みは国内初^{※3}となります。

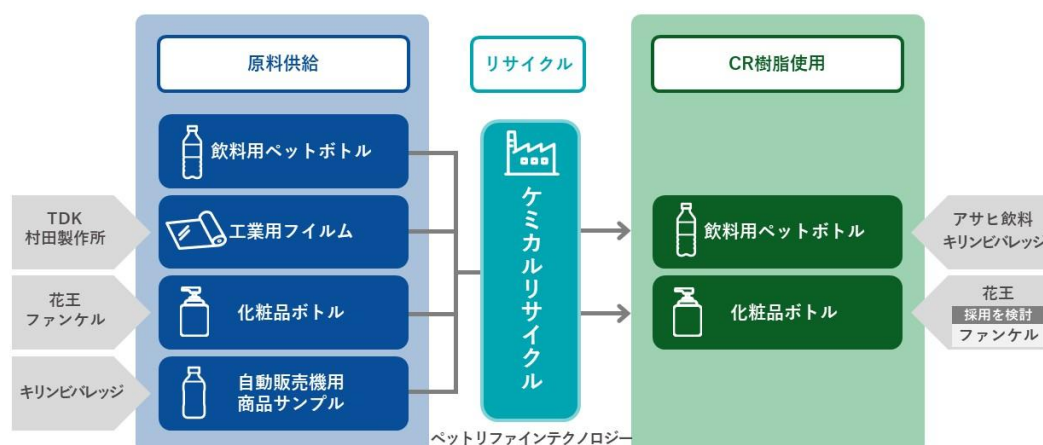
※1 ポリエチレンテレフタレート の略。

※2 分子レベルまで分解し、色素や金属などの不純物を取り除くことで、石油由来と同等品質の再生 PET 樹脂へ再生するリサイクル手法。

※3 JEPLAN 調べ。

本取り組みは、飲料用ペットボトルの CR 原料の一部を非食品用途 PET へ拡大していくことで、これまでのリサイクルでは十分なプラスチックの資源循環には至らないという課題に対応することを目的としています。

本取り組みにおける各社の役割



本件に関する取材のお問い合わせ先

株式会社 JEPLAN 広報担当

電話：044-223-7898 E-mail：jeplan_info@jeplan.co.jp

今回の取り組みでは、使用済み飲料用ペットボトルに加えて、非食品用途として使用された工業用フィルムおよび化粧品ボトル、自動販売機用商品サンプルを CR の原料として使用します。工業用フィルムは、TDK と村田製作所が、電子部品を製造する際に使用された工業用 PET フィルムの端材をリサイクル原料として供給します。化粧品ボトルは、花王とファンケルが店頭で回収した使用済みの化粧品ボトルを供給します。そして、自動販売機用商品サンプルは、キリンビバレッジにて商品入れ替え時に不要となったものを供給します。その後、ペトリファインテクノロジーがCRを実施しCR樹脂使用各社に供給します。使用する各社は、CR で再生された PET 樹脂の品質評価を実施した上で、飲料用ペットボトルや化粧品ボトルへの採用を検討していきます。各社での採用については、キリンビバレッジは 4 月から飲料用ペットボトルの一部にて、花王は 5 月から化粧品ボトルの一部に当原料を一部採用し、製造を開始します。また、アサヒ飲料は 10 月以降の採用を予定しており、ファンケルにおいても採用に向けた検討をしていきます。

これまでも各社は、PET 樹脂における CR での水平リサイクルに取り組んできました。今回の取り組みは、JEPLAN が有する独自の PET 樹脂における CR 技術に対し、キリンのパッケージイノベーション研究所（所長 松田明彦）が保有する PET 樹脂を食品容器としてリサイクルする際の安全性評価に関する考え方や分析方法を提案し、各社での安全性評価を経て本取り組みに至りました。今後も、各社が協業することで、さらなる使用済みプラスチックの有効活用と GHG 排出量の削減を目指します。